

## 【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	25.0%	8.2%	32.8%	d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の保全と公開のバランス等を勘案し、4年に一度の展示を目標としたが、今年度は、特別所蔵品展を開催しなかったこと、コレクション・ギャラリーを年間3本としたことから、作品稼働率が低くなった。</li> <li>・作品貸出は管内1館にとどまった。</li> <li>・今後は、「アートギャラリー北海道」の取組とあわせ、他館の企画展での活用促進を働きかける。</li> </ul>
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートギャラリー北海道」事業として、ロイ・リクテンスタインの大型版画作品の購入を実現することができた。</li> <li>・「岡沼淳一・木彫の世界」展開催を契機に作家より木彫作品2点を寄贈いただいた。企画展開催の成果として評価されるべき事項である。そのほか油彩画、版画、写真の各分野にわたる作品の受贈も受けることができた。</li> </ul>
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松浦武四郎展では重要文化財を展示するため、保存・展示環境の調査を行うなど、保全に努めている。</li> <li>・本年度、作品修復は行わなかった。</li> </ul>

## 【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	コレクションの適切な保存管理と効果的な活用に努め、作品収集においては、調査研究を進めてきた作品を購入と受贈で収集することができ、ほぼ目標を達成することができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	22,000人	36,128人	164.2%	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標値を大きく上回る観覧者数となり、観覧者数、満足度、リピート率ともに目標を達成している。</li> <li>・特別展の観覧者数増が、常設展の観覧につながっている。(常設展観覧「初めて」回答者26.9%)</li> </ul>
	常設展示観覧者の満足度	85.0%	90.6%	106.6%		
	常設展示のリピート率	16.0%	26.1%	163.1%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	37,000人	55,674人	150.5%	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標値を大きく上回る観覧者数となり、観覧者数及び満足度、リピート率ともに目標を達成している。</li> <li>・前期・後期で展示内容を変えたこと(松浦武一郎展)等により、リピート率(1年以内)が伸びたと考えられる。</li> <li>・リピート率については、新規来館者(特別展観覧「初めて」回答者)が44.0%となり、ターゲットの拡充が図られた。</li> </ul>
	特別展示観覧者の満足度	94.0%	92.4%	98.3%		
	特別展示のリピート率	21.0%	30.9%	147.1%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートギャラリー北海道」連携館 神田日勝記念美術館の協力により展覧会プレ企画としてロビー展示(馬の絵作品展)を行うとともに、相互割引制度を開始した。</li> </ul>
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の展覧会の特性に合わせ、企画のコンセプトと作品の魅力を伝えられるように工夫した。「魔法の美術館」は写真撮影可とし、また他の特別展でも写真撮影コーナーを展示室内外に設けるなどして、来館者の興味・関心を高めることができた。</li> </ul>
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	(実施なし)	(実施なし)	設定なし	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の貸し出し以外、館外展示はなかった。今後、アートギャラリー北海道の参加館との連携などを検討する必要がある。</li> </ul>
	その他の館外展示の状況					

## 【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	多様な展覧会企画により、常設展、特別展とも目標を達成することができ、平成6年度以来の年間観覧者数9万人超えとなった。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	56回	58回	103.6%	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会展では、共催者や関係団体との連携により、ワークショップやコンサートなど多様なイベントを開催し、また、展覧会のセルフガイド(クイズ)を積極的に提供したため、参加者数が指標値を大きく上回った。</li> <li>・著名な講師による講演会や地元出身の演奏家を招いたコンサートなどが参加者の関心を高め、高い満足度につながった。</li> <li>・普及事業の内容を練り、運営にあたっては、対象に応じた指導体制や事前準備など、きめ細かい配慮を行った。</li> </ul>
	教育普及プログラムの参加者数	2,800人	10,679人	381.4%		
	教育普及プログラムの満足度	92.4%	96.5%	104.4%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	4,300人	6,982人	162.4%	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数の伸びに伴い、図書コーナーの利用が増加した。</li> <li>・展覧会にあわせ、道立図書館の図書を活用した絵本コーナーを設置し、来館者に楽しんでいただくことができた。</li> <li>・ティーラウンジと連携し、図書コーナー付近にテーブル席を複数設置することで、利用しやすい環境を整えている。</li> <li>・HPアクセス数が20万件を超え、目標を大きく上回った。特に子どもや家族をターゲットとした展覧会会期(7~8月)中のアクセス数が非常に高かった。また、アートギャラリー北海道のスタートによるものと推察される。</li> <li>・ソーシャルメディア(Facebook)の投稿数は目標を大きく上回った。また、実行委員会展の特設SNSと連携し効果的な情報発信を行った。</li> <li>・近年、ソーシャルメディアによる情報発信・情報収集が主となっていることから、メールマガジンは発行を見合わせた。</li> </ul>
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	75.0%	77.2%	102.9%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	40,000件	200,081件	500.2%		
	メールマガジン等発行回数	3回	0回	0.0%		
	ソーシャルメディアの投稿数	96回	174回	181.3%		
	情報発信の状況					

## 【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	地元作家や関係団体等との連携により教育普及プログラム内容の充実を図るとともに、積極的な情報発信に努めたことにより、目標を達成することができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵品展の企画にあたり、さまざまな側面からの調査・研究により内容の充実した展覧会の実現を目指す。作品収集にあたっては、当該作品の詳細で緻密な調査・研究が不可欠である。「紀要」の執筆に不可欠な調査・研究が必要とされる。</li> <li>・寄贈を含め、作家資料や図書資料等は継続的に収集・整理し充実を図っている。</li> <li>・収納スペースの狭隘化に伴い、適切な整理を行うことが課題となってきている。</li> </ul>
	二次資料の状況					

## 【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	作品収集や展覧会企画をはじめとした美術館活動推進のため、作品収集基本方針にもとづき各分野の調査・研究に地道に携わる必要がある。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係 機関との連携 状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	190人	122人	64.2%	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業参加者数は目標に達しなかったが、ボランティアによる託児事業は好評であり定着しつつある。</li> <li>・帯広美術館ボランティア「しらかばの会」、帯広美術館振興会、十勝毎日新聞社、北海道新聞社、平原社などの美術家団体、帯広市および周辺町村の教育委員会、道立図書館等との連携・協力により、展覧会、教育普及事業、付帯施設運営、広報活動などの充実を図っている。</li> <li>・立地する緑ヶ丘公園内の公共施設との情報交流を行い、連携体制の構築を図っている。</li> </ul>
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携 の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	2校	100.0%	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯広大谷短期大学、北海道教育大学釧路校の2校。</li> <li>・出張アート教室や指導者研修、十勝研修センターでの研修講座は定着しつつあり、美術教育の一助となっている。</li> <li>・出張アート教室参加者数は実施校の規模により目標を下回った。</li> <li>・指導者研修は、教育局と連携し初任段階教員研修(3年次研修)と兼ねて開催した。多くの参加につながる工夫が必要。</li> <li>・インターンシップや出前授業など、学校教育活動を支援するとともに、アートカードの活用を働きかけた。</li> <li>・指導者研修の満足度は高い。</li> <li>・近隣児童会館との連携により多くの学校の利用につながった。</li> <li>・遠方の学校は、交通手段の確保が課題となっている。</li> </ul>
	出張アート教室の延べ参加者数	80人	66人	82.5%		
	指導者研修の延べ参加者数	10人	5人	50.0%		
	学校教育活動への対応数	13件	12件	92.3%		
	参加者・利用者満足度					

## 【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	地域の関係機関や団体等との密な連携により美術館活動の充実を図り、目標を達成することができた。学校との連携については、教員への情報提供や研修機会を工夫し、美術館の活用を引き続き働きかける必要がある。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

H31年3月31日現在

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の 充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	73.0%	80.0%	109.6%	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫茶、ミュージアム・ショップとも目標を達成している。</li> <li>・いずれの付帯施設も、当館ボランティア「しらかばの会」が運営に当たっており、職員との連携を密に、展覧会にあわせた物販・メニューを提供するなど内容を工夫している。</li> </ul>
	ミュージアムショップ利用者満足度	76.0%	76.4%	100.5%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	93.0%	92.1%	99.0%	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにおいて満足度が高く、ほぼ目標を達成している。</li> <li>・職員とボランティアが展覧会ごとに学芸員のガイダンスを受け、理解を深めた上で来館者への対応にあたっている。</li> </ul>
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の 保持	施設内外の環境への満足度	94.0%	92.4%	98.3%	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績値は、アンケートにおける「館内表示」、「清潔さ・雰囲気」の満足度の平均値で算出し、概ね目標を達成している。</li> <li>・日常の点検、巡回、法定点検により、安全性保持に努めている。</li> <li>・委託業者等との連絡を密に適宜補修等に努めているが、対応年数等を勘案しながら計画的に修繕する必要がある。</li> </ul>
	施設安全性保持のための必要な措置					

## 【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者アンケートを全職員で共有し、ボランティア団体と連携を密にしながら運営の改善・充実に努め、ほぼ目標を達成することができた。</li> <li>・施設・設備の安全保持については、来場者のニーズや老朽化の課題を踏まえ、計画的な修繕を進める必要がある。</li> </ul>

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E